

令和5年度第1回 成田市まち・ひと・しごと創生推進会議会議録

1 開催日時

令和6年1月24日（水） 午後2時～午後3時30分

2 開催場所

成田市花崎町760番地

成田市役所議会棟3階 執行部控室

3 出席者

（委員）

関根座長、栗田副座長、小川委員、市橋代理、伊能委員、山口委員、古本委員、宮崎委員、久米委員、伊藤委員、加瀬委員、天野委員

（事務局）

企画政策部 鬼澤部長

企画政策課 金光課長、弘海課長補佐、大胡係長、関主任主事

行政管理課 秋野課長、佐藤係長、山崎主任主事

4 議事（要旨）

○KPIの進捗状況について

- ・「成田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」で設定している数値目標や重要業績評価指標（KPI）等の各種指標の進捗状況及び増減理由等について説明を行った。

○第3期成田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

- ・国の地方創生に関する動向として「デジタル田園都市国家構想総合戦略」についての制度概要について説明し、次年度にかけて、次期総合戦略を策定することについて説明を行った。

○本市におけるDXの現状と今後の取り組みについて

- ・次期戦略にデジタル要素を取り入れるにあたり、本市におけるDXに係る推進体制と取組状況について説明を行った。

5 質疑等

【議題1】KPIの進捗状況について

- 数値目標「市への誇りや愛着を持っていると思う市民割合」とKPI「市民の住み心地満足度」について、市民アンケートの結果をもとに算出した結果かと思うが、実績が低下した要因はどのように分析しているか。

→ 令和5年度実績のデータ元となっている市民アンケートは、令和4年10月に実施したもので、コロナ禍において市民生活に様々な制限がある中で実施したアンケートの結果であり、コロナの影響を大きく受けたと分析している。現在は5類感染症への移行など経済活動が再開されて経済活動も回復していることから、市民アンケートの結果も良化するものと見込んでいる。

□多くの指標が前年比で高い数値が出ている中で、KPI「保育園等及び地域型保育事業所の待機・保留児童数」や「ゴミのリサイクル率」が低下している要因があれば教えて頂きたい。

→ まず、待機児童数に関する指標の算出方法について、当該指標には「保留児童数」の人数が含まれている。これは、例えば第一希望の保育所のみ入園希望を申請したが入所できないなど、希望通りの保育所等に入所できなかった児童数を含んでいることから、一見して高い数値に見て取れるが、国の統計上は保留児童数のカウントはしていないことに加え、他自治体でも一般的に公表しているのは待機児童数の数のみであり、本市でも待機児童数のみ数えると、令和2年度が16名、令和3年度が8名、令和4年度が13名となっており、保育所の増設などの施策による効果が出ているものと捉えている。

次にゴミのリサイクル率について、本市は他自治体と比較して空港関連企業をはじめとした企業数が多いことが特徴であるが、ごみの算出方法として、企業が出す再資源化が可能な事業系ごみは「産業廃棄物」としてカウントされ、その他のごみの多くは「可燃ごみ」としてカウントされることから、企業の出すゴミの多くはリサイクルされたごみとして計上できないことから、企業の経済活動が回復しゴミの量が増えたことで当該指標に影響が出たものと分析している。

しかしながら、ごみのリサイクル率を高めるため、令和2年度より市民へゴミの分別を促進するため雑紙保管袋を配布し、可燃ごみのうち多くの割合を占める紙ごみのリサイクル率を高める施策等を行うなど、環境に配慮した持続可能なまちづくりに努めているところである。

□待機児童数について説明いただいたが、保育士の数はどうか。

→ 市内保育所の保育士数について正確な数値はこの場で持ち合わせていないが、保育士不足の解消に向けた処遇改善策として、市内の私立保育施設で勤務する保育士の給与増額のため、勤務年数に応じた新たな補助制度「なりた手当」を実施し、翌年度からは上乘せ額を増額させるなど、待機児童数の解消に向けて施設整備といったハード事業に加え、保育士の確保などソフト面での事業についても充実を図っていく予定である。

□雑紙保管袋の活用について、広報なりたでも使い方など周知があったが、ごみ置き場を見渡すと段ボールに入れて出すなどルールが徹底されていないように思うので回収業者

も含めて対応策を検討いただきたい。

→担当課にその件共有し、検討したい。

□成田市の人口動態について、増加している旨の説明があったが、その内訳をみると外国人の割合が多く、日本人は自然動態も加味すると減少している。日本人の人口を増やす施策を強化する必要があるのではないか。

→ 成田市の人口動態としては委員の指摘のとおり外国人の増加が顕著である。本市としては日本人・外国人を問わず住みやすい住環境の整備を進めるとともに、成田空港の更なる機能強化による就業人口の増加に合わせて区画整理事業や成田ニュータウンの再生など受け皿の確保につながる施策をしっかりと展開し、日本人の人口についても維持・増加するよう対応してまいりたい。

□第2期総合戦略で掲げる目標値や、その算定基準はどのようなプロセスで決められたのか。指標ごとに専門家を介して検証して算定をしたのか。

→ 目標値の設定については、その基準となっている数値や策定時点までの推移などを参考に担当課で算出したものについて、この推進会議などで報告し意見等を伺いながら修正を加え、最終的に委員の皆様へ承認をいただき目標値を確定した。

□基本目標1「魅力あるしごとで生き生きと働くことができるまち」においては各KPIの多くが前年比で増加しているが、数値目標が下がっており若干矛盾を感じるが、どのように捉えているか。

→ KPIと数値目標の設定については様々な検討の中で確定したものであるが、委員ご指摘のとおり次期戦略の策定においてはこれらの指標の設定方法についても見直ししながら策定を進めてまいりたいと考えている。

□巡航速度比をみると全体的に順調ではない印象があるが、今後、市で事業を検討していく中で目標達成に向けた意気込みや対策を教えてください。

→ 地方創生を目的として設定した当該戦略の数値目標は、市民アンケートの結果要因でも触れたが、感染症の影響を強く受ける結果となった。しかしながら現在は多くの指標で回復傾向にあることから、次期戦略でもしっかりと本市の活性化にむけた目標を再設定して取り組んでまいりたい。

□人口動態について説明があったが、大学等の学校が多く賃貸住宅も多くあることから、住民票を置かず済んでいる住民が多くいると推測できるので、その点対策などを講じて良いのではないか。

→ 委員ご指摘のとおり、一人暮らしをする学生などは住民票を親元に置いたまま本市で住んでいる学生なども多くいると認識している。それらの方々の定住にもつなげるなど

様々な施策を展開し多くの方が住みやすいまちづくりを進めてまいりたい。

→ 本市にキャンパスを構える国際医療福祉大学では、令和6年4月1日に薬学部の新設をする予定であり、1学年の定員は120名を予定しているなど、今後も若い学生などの流入が期待できる。

また成田空港の更なる機能強化に合わせて必要な就業者数が増える一方で担い手不足が深刻化している課題もある。70周年記念事業として市内の高校生をアメリカのボーイング社へ行くことのできるツアーなどを予定しており、今後、航空業界の興味をもつきっかけとなるような事業を実施する予定である。今後も成田空港の更なる機能強化に向けて市としてやるべき施策をしっかりと展開していきたいと考えている。

【議題2】第3期成田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

特に意見等なし

【議題3】本市におけるDXの現状と今後の取り組みについて

□説明の中で電子申請について今後進めていく予定であることが分かったが、市の申請事務における電子申請の割合はどの程度なのか。

→ まずは申請数の多い事務について電子申請ができるよう整備しているところであり、まだまだ電子申請が可能となった申請の割合は低い状況であるが、順番に電子申請化できるように取り組みを進めてまいりたいと考えている。

□今後、企業とのDX化も進めていくと思うが、現在整っている電子入札の他に電子契約など新たなメニューを追加する予定はあるか。

→ 現在千葉県で電子契約の導入が進んでいることから、本市においても同様に導入の検討を進める必要があると考えている。

□千葉県でも各市町村とのシステムの共同利用なども進めていくことも想定できるので、千葉県の動向を見ながら進めていただければと思う。

□DX化に関する整備に係る初期投資には大きな費用がかかり、各市町村でも温度差があるように思うが、成田市ではどの程度の予算を計上しているのか伺いたい。またDXの推進について企業に一括で委託などしているのかあわせて伺いたい。

→ 先ほど説明した新たなDX化の整備に係る費用のほか、通常係る電算費用も含めた額で約10億円程度を計上している。

また DX の推進について特定の企業に委託をしていることはないが、やはり整備費に多額の予算が必要となることから、費用対効果について検証しながら進めるとともに、当該会議の委員をはじめ、外部の方々から多様なアドバイス等をいただきながら、本市にとってより効果的な DX に係る取組みを展開してまいりたいと考えている。

以上